国語

東京書籍
三省堂
教育出版
光村図書出版

採択基準	基本観点	発行者名			
		2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	全体としての特徴や創意工夫	<p>中学校学習指導要領に示された教科の目標にのっとり、指導事項と言語活動例がもれなく扱われている。生徒が言葉への自覚を高め、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるように工夫している。</p> <p>折込を用いるなどして、古典作品のあらすじや歴史的背景が、色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版とともに掲載されており、古典を深く理解し、鑑賞することができるように工夫されている。</p> <p>補充的・発展的な学習ができる配慮がされている。教科書に示されている二次元コードから利用できるデジタルコンテンツが充実している。(全415)</p> <p>「読むこと」教材や読書教材、「未来への扉」、資料編など、随所に「読書案内」が用意されている。3年間で合計422冊のさまざまな種類・テーマの本が紹介され、著名人の推薦本も紹介されているなど、生徒の多様な興味に応えられるように配慮されている。</p>	<p>学習指導要領の目標と内容がもれなく指導できる教科書になっており、学習過程の明確化や学習の系統性の重視、言語活動・読書活動の充実などが図られている。</p> <p>和歌・俳句・古文・漢詩・漢文などを幅広く取り上げ、言語文化の継承・発展やその意義を考えることができるよう配慮している。</p> <p>補充的・発展的な学習ができる配慮がされている。教科書内の二次元コード参照先のサイトでは、「動画・音声」「デジタルドリル」「参考資料」など、個別最適な学びと協働的な学びの実現をサポートする500点以上の充実したデジタルコンテンツが用意されている。</p> <p>「読むこと」教材の末尾に「私の本棚」を設け、教材との関係を明示しながら図書を紹介するとともに、「読書の広場」の「小さな図書館」にはテーマごとに各学年47冊の図書を紹介している。また書籍紹介数は3学年合計で283点ある。</p>	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、各領域での教材を工夫している。各単元や教材の目標、内容を明確に示し、3学年で系統的・段階的に学習が進められるよう構成している。</p> <p>長く受け継がれている我が国の言語文化に触れ、親しむことにより、感性や情緒を高め、これを尊重して次の世代につないでいく態度を育成できるように図っている。</p> <p>補充的・発展的な学習ができる配慮がされている。教科内容に応じて「まなびリンク」を設け、学習時に参照できる生徒の自学自習に資する資料や、参考図書、参考作品、動画・画像資料などを教育出版のウェブサイトで見られるようにしている。(全150コンテンツ)</p> <p>さまざまな題材、ジャンル、文種による作品を読み、多様な世界について興味をもち、知り、考えることを通して、生涯にわたる読書生活を豊かなものにできるよう工夫している。(書籍紹介数3学年258点)</p>	<p>学習指導要領の各学年の目標及び内容がもれなく指導できるよう、教材を選定・作成している。資質・能力が確実に定着するよう、各教材のねらいを明確にし、学年内・学年間を見通して系統的・段階的に位置付けている。資質・能力が習得と活用を繰り返しながら、螺旋的に高まるよう工夫している。</p> <p>伝統的な言語文化が現代にも息づき、親しまれていることを実感し、自らが継承していくことを意識できるよう教材を工夫している。また生涯にわたる読書習慣を身に付けさせるよう配慮している。</p> <p>補充的・発展的な学習ができる配慮がされている。二次元コードには3年間で350以上のコンテンツが収録されており、個々の目的や興味・関心に応じて自由に選択し、活用することができる。</p> <p>教材末の「広がる読書」、読書教材内の「本の世界を広げよう」では、47都道府県の推薦図書リストなどを参考に、価値ある図書を選定している。3学年合計447冊を紹介している。</p>
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<p>「読むこと」教材の手引きの中の「広がる言葉」では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p>	<p>基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、習得したことを自覚して、繰り返し活用することで定着するよう、各領域とも重視する観点や学習の方法を明確に示している。</p>	<p>各教材に「知識及び技能」の指導事項を設定し、言語や情報の扱い方、各領域などで学ぶべき基礎的・基本的な知識・技能が身につくように、教材を作成、構成している。</p>	<p>1年「言葉に立ち止まる」2年「言葉と向き合う」3年「言葉とともに」は、言葉をテーマにして複数の教材で構成し、生徒が言葉について多角的に考えられるように配慮している。</p>

採択基準	基本観点	発行者名			
		2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	別表2	<p>「広がる言葉」と関連する二次元コードコンテンツ「言葉を広げよう」には1,870語の言葉のリストが用意されており、意味・用例を知ることができる。</p> <p>「情報と論理の学び」の各教材では、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの情報と情報との関係の捉え方や、比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方を、生徒にとって身近な例を題材に体系的に学ぶことができる。</p>	<p>各教材に設定している「語彙を豊かに」によって、教材の学習に関連付けながら、多様な語句を身に付け、五感を磨くことができるようにしている。</p> <p>各学年の第6単元に、「情報と関係づける」として、「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と文章による情報とを関連付けながら自分の考えを深める学習ができるようにしている。</p>	<p>言語教材では、単元内に「言葉の小窓」「文法の小窓」を配し、日常の言語生活から言葉の存在や機能に気付き言語学習への導入を図っている。</p> <p>各学年の巻末に学習上重要な用語を使用した「学習に必要な用語(索引)」を設け3学年分の内容をまとめて示し、学習の見通しや振り返りもできるようにし、基礎の定着と発展を図っている。</p>	<p>「文法の扉」には二次元コードコンテンツとして試行錯誤がしやすいデジタル版も収録している。「語彙ブック」が新設されている。</p> <p>「情報と情報との関係」を扱う「思考のレッスン」と「情報の整理」を扱う「情報整理のレッスン」を設け、練習問題を通して実践的に知識や技能を習得できるよう配慮している。</p>
(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<p>新教材【1年】2 【2年】2 【3年】1</p> <p>「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材では、日常生活や社会生活を題材とした多彩な言語活動が用意されており、基礎的な力を習得し、それを前後の三領域の学習で活用できるように、教材の配列が工夫されている。</p> <p>各教材冒頭の「見通す」で育成する「言葉の力」に対応する目標及び生徒目線で書かれた「問いかけ」が明示され、生徒が何に注目して学習すればよいのかが分かるようになっている。</p> <p>「学びを支える言葉の力」には、学習の導入としてのアニメーションや、教科書で扱っている内容をより詳しく学ぶことのできる「詳しい解説」、理解の定着を図る「練習問題」が二次元コードコンテンツとして用意されている。</p>	<p>新教材【1年】2 【2年】6 【3年】7</p> <p>3学年とも、1年間の学びの総まとめとして、「話す・聞く」「書く」を抱き合わせた単元が配置されている。学習活動の手順を明確に示すとともに、「学習のポイント」を示し、ゴールイメージを持つことで、学習に取り組みやすくなるよう工夫している。</p> <p>各学年の巻末には、『読み方を学ぼう』一覧を付し、学習した読み方の方略を繰り返し確認し、他の教材や他教科の学習で「学び方」として活用することを通して、定着が図れるように工夫している。</p> <p>教材文の後に「学びの道しるべ」が配置されている。またデジタル教科書・教材には、教科書を立体的に学べるコンテンツや機能を収録している。</p>	<p>新教材 紹介なし</p> <p>「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で、自ら「問い」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う能力を育成できるよう工夫している。</p> <p>「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では学習の過程が明確となるよう、学習の進め方と重点を教材の冒頭や学習活動の手順「学習活動の流れ」に明示し、目標に沿って重点的な指導事項と活動との対応も示している。</p> <p>各教材に学習の手引き、「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」で押さえた「読み方」や学習の重点を踏まえて、内容を読み深められるように構成している。</p>	<p>新教材【1年】8 【2年】5 【3年】8</p> <p>生徒一人一人が主体的に学習に取り組み、学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」「書くこと」の資質・能力を効果的に習得できるよう、各教材の構成を工夫している。</p> <p>3学年とも、1年間の学びの総まとめとして「話す・聞く」「書く」を抱き合わせた単元が配置されている。</p> <p>「学びへの扉」(手引き)は、学習活動全体を見通し、自らの学習を調整しながら、対話的に理解や考えを深める構成になっている。</p> <p>各学年の最後に、1年間で身に付けた資質・能力を活用して問題に取り組み「国語の力試し」を設けている。二次元コードからCBT形式の設問に取り組み、</p>	

採択基準	基本観点	発行者名			
		2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	別表3				自己採点・自己評価をすることもできる。身に付けた資質・能力を確かめ、他教科や日常生活に活かせるよう配慮している。
(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	別表4	教科書全体を通して、多様な個性を持ったキャラクターに倣って主体的に学習を進めるスタイルが貫かれている。問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒どうしが助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、互いの考えを活かして結論をまとめたりするなど、協働して学びを深められるように工夫している。	確かな目的と見通しを持ち「学び方」を意識しながら学習を進め、学びの成果を実感することで、意欲的に取り組めるよう工夫している。 対話や考えの共有などの協働的な言語活動の場を適切に設け、仲間とともに学習の達成感を得て、学ぶ意欲を高められるようにしている。	各教材の目標と振り返りを明確に示し、学習の見通しを持ち、自分の学習を認識することができるよう配慮している。 「学びナビ」では、文章を読む前や言語活動に取り組む前に、当該教材での学習の重点や学習内容の観点を把握することで、学習の見通しが明確になり、主体的に学習に関わるかまえをつくり、読みを深めることができるよう図っている。	巻頭に、1年間の学習と身に付ける資質・能力が俯瞰できる「学習の見通しを持つとう」を設け、生徒が主体的に学習の見通しを持ったり、既習事項を確かめて次の学習に活かしたりすることができるよう工夫している。
(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	別表5	資料編には、本編の「読むこと」教材に関連する別の小説・説明文や「要約の仕方」「思考のヒント」(思考ツール)などの学習に役立つ資料が掲載されている。 さらに、二次元コードコンテンツ「デジタル資料室」には、多くの資料が用意されており、生徒が授業中の個別の活動や家庭学習において、必要に応じて活用できるように工夫されている。	資料編は、「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」からなり、情報活用に資する資料、伝統文化に親しむ資料、言語活動に必要な知識などを掲載して、言葉の力、学ぶ力を高められるよう工夫している。 現代社会の課題について、様々な情報に関連付けて深めた自分の考えを基に、それを書いて発信することを通して、課題解決に向けて取り組む態度を養う教材を設けており、社会の一員として求められる幅広い資質・能力の育成を図っている。	各教材の指導事項を重点化させて「言葉の地図」に示し、指導の焦点化を図ることができるよう図っている。 「学びナビ」で教材の文章や活動の前に学習内容の重点を示し、指導者も生徒も指導の見通しを持てるよう構成されているため、指導や評価の焦点化がしやすく、指導の負担を減らせるように図っている。	巻頭・巻末や教材中の挿絵や写真、図・グラフは、文章と合わせ情報として読み取るもの、理解を助けるもの、イメージを広げるものなど、目的に応じて効果的に活動できるよう配慮している。 生徒が主体的に選択し、補充的・発展的に扱えるよう、「資料編」を設け、教材に関連した資料を領域別にまとめている。
(5) 他の教科等との関連		書写、社会、理科、技術・家庭、保健体育、英語など、他教科などの学習内容と関連する題材が積極的に取り上げられ、関連があることを示す関連マーク(🔗マーク)が付されている。 豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を培う協働的な言語活動が豊富であり、道徳と	他教科や日常生活との連携を図り、幅広い題材についての認識を深め、国語科の学習で習得した言葉の力が他教科や社会生活などの中で生きて働くよう工夫している。 「学び方」を学ぶことを重視し、他教科の学習や社会生活における言語活動において活用できるよう工夫している。	各学年の「総合SDGs」教材をはじめ、各領域にSDGsや生徒が日常的に向き合っている課題を取り上げた教材を置き、社会、理科、道徳などでの学習との関連が図れるように配慮している。 各領域にSDGsにかかわる人権、平和、環境、産業など生徒が日ごろの生活で向き合っている課題について自ら考え、表現する力を	持続可能な社会の創り手を育成するために、全学年にSDGsを題材として特設教材「情報×SDGs」を設け、今日的な諸課題を自分の問題として幅広く取り上げ、「学習の見通しを持つとう」に関連を明記している。 話題・題材は農山漁村・都市など地域的な偏りを避けるとともに、国際的視野

別表1

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
「学習指導要領に示す目標の達成」に関わる全体の構成の特徴について	<p>○指導事項と言語活動例 生徒が言葉への自覚を高め、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」の育成 言葉を適切に使うための「知識及び技能」、思いや考えを伝え合うための「思考力、判断力、表現力など」を育成することができる。また、言葉や言語文化の価値を認識し、国語の能力の向上を図るといった「学びに向かう力、人間性など」を涵養することができる。</p> <p>○「言葉の力」 各学年巻頭には、当該学年の学習事項が領域ごとに掲載され、学習指導要領との対応が明示されている。また、各学年巻末には、中学校3年間の「言葉の力」（学習を通して育成する資質・能力）の一覧も掲載され、3年間の学習の見通しを持ったり、既習事項を振り返ったりすることができる。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現 各教材冒頭の「見通す」で学習の見通しを持ち、教材末の「振り返る」で学習を振り返るとともに、次の学習への展望を持つという仕組みによって、生徒が主体的に学習できる。また、教科書全体を通して、協働的な学びの場面が多く設定されている。</p>	<p>○学習指導要領に対応した工夫や配慮 学習過程の明確化や学習の系統性の重視、言語活動・読書活動の充実などが図られている。</p> <p>○語彙指導の改善・充実 各教材に「語彙を豊かに」を設定するとともに、資料編には「語彙の広がり」を配置し、理解できる語句や使える語句を増やし、語感を磨くことができるようにしている。</p> <p>○情報の扱い方に関する指導の改善・充実 各学年に「情報を関係づける」として、「情報の扱い方」に特化した単元を設けたほか、各教材の学習過程に沿って「思考の方法」を位置付け、教科書全体を通じて「情報の扱い方」を学習できるようにしている。</p> <p>○我が国の言語文化に関する指導の改善・充実 和歌・俳句・古文・漢詩・漢文などを幅広く取り上げ、言語文化の継承・発展やその意義を考えることができるよう配慮している。</p> <p>○キャリア教育への対応 今までの歩みを振り返ったり、今の自分を見つめたり、将来について考えたりする教材を配置し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力や態度を育てることに配慮している。</p> <p>○現代的な課題への対応 急激な社会の変化がもたらす現代の課題や、持続可能な開発目標（SDGs）に、社会の構成員として粘り強く取り組む姿勢を養い、積極的に問題解決にあたるために、対話や合意形成などの具体的方法、そのために欠かせない論理的な思考力・判断力・表現力などを育成する教材を配列している。</p> <p>○教育のICT化へ対応している。</p>	<p>○国語で理解し表現する資質・能力の育成 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、各領域などでの教材を工夫している。各単元や教材の目標、内容を明確に示し、3学年で系統的・段階的に学習が進められるように構成している。</p> <p>○生きて働く「知識・技能」の習得 言葉の機能や働きを知り、言葉そのものに興味・関心をもちながら、言葉を通してものごとを的確に理解し、論理的に考え、表現する能力を高められるよう配慮している。他者との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉を通じて伝え合い、理解し合う能力を育成できるよう配慮している。</p> <p>○未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」の育成 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で自ら「問い」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う能力を育成できるよう工夫している。国際的な視野をもち、国語で学んだ知識・技能を生かして、多様な情報を理解し、活用する能力を高め、社会のさまざまな課題に対して、主体的に関わり、考え、解決する能力を養えるよう工夫している。</p> <p>○よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性など」の涵養 新しい時代の社会を担う一員として、生活や社会におけるさまざまな課題に対して、それを発見し、他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決をみざす態度と能力を育成できるよう、配慮している。</p>	<p>○何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得） すべての学習活動において、言葉に着目し、語彙を広げ、語感を磨くための工夫を施している。読書を通してもの見方・感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとする態度や、自分の読書生活をより豊かなものにしていこうとする姿勢を育成するよう工夫している。</p> <p>○理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」の育成） 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の最初の見開きや、「読むこと」の「学びの扉」（手引き）は、学習活動全体を見通し、自らの学習を調整しながら、対話的に理解や考えを深める構成になっている。国語の資質・能力を焦点化・視覚化して「学びのカギ」に示し、確実に身に付けられるようにしている。また、巻末『「学びのカギ」一覧』や、二次元コードコンテンツ「学びの地図」を参照しながら、習得した資質・能力を次の学習や社会生活における課題解決に役立てられるようにしている。</p> <p>○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性など」の涵養） 習得した資質・能力を次の学習や生活に生かしていけるよう、「振り返る」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で自己評価できるようにしている。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた配慮 巻頭に、1年間の学習と身に付ける資質・能力が俯瞰できる「学習の見通しをもとう」を設け、生徒が主体的に学習の見通しをもったり、既習事項を確かめて次の学習に生かしたりすることができるよう工夫している。</p> <p>○「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた配慮 二次元コードには3年間で350以上のコンテンツ収録している。</p>

調査項目		発行者名			
		2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
我が国の言語文化に親しむ教材	扱っている古典作品の数と示し方の特徴	○1年 【単元名】 伝統文化に親しむ 【教材名】 () 内はコラム 移り行く浦島太郎の物語、伊曾保物語(古典の仮名遣い)、竹取物語(古典の言葉とその意味)、矛盾(虎の威を借る狐、漢文の読み方)	○1年 【単元名】 古典に学ぶ 【教材名】 () 内はコラム 月を思う心、竹取物語(古文の読み方—古典の仮名遣い)、故事成語—矛盾(漢文の読み方—訓読の仕方)	○1年 【単元名】 古典にふれる 【教材名】 () 内はコラム 昔話と古典—箱に入った桃太郎—、物語の始まり—竹取物語—(古典の仮名遣い、いろは歌)、故事成語—中国の名言(漢文の読み方)	○1年 【単元名】 いにしへの心にふれる 【教材名】 () 内はコラム 古典の世界、音読を楽しむ—いろは歌—、蓬萊の玉の枝—「竹取物語」から(古典の言葉)、今に生きる言葉(故事成語を使って体験文を書こう、漢文を読む)
		○2年 【単元名】 伝統文化を味わう 【教材名】 枕草子・徒然草(係り結び)、平家物語(表現の特徴)、漢詩(漢詩の形式)	○2年 【単元名】 古典を学ぶ 【教材名】 枕草子、徒然草、平家物語(読み方を学ぼう—物語の転換点、あの人(の)の歌)、漢詩の世界(漢文の読み方—漢詩の形式)	○2年 【単元名】 古典を楽しむ 【教材名】 敦盛の最期—平家物語—(歴史的仮名づかい、係り結び)、随筆の味わい—枕草子・徒然草—、二千五百年前からのメッセージ—孔子の言葉—(漢文の読み方、置き字)	○2年 【単元名】 広がる学びへ いにしへの心を訪ねる 【教材名】 枕草子、音読を楽しむ—平家物語、扇の的—「平家物語」から、仁和寺にある法師—「徒然草」から(係り結び、人物の特徴を捉えて論じよう)、漢詩の風景(律詩について)
		○3 学年 【単元名】 伝統文化を受け継ぐ 【教材名】 万葉・古今・新古今(和歌の修辞)、おくのほそ道(俳諧の歴史)、論語(漢文の読み方、古典の言葉)	○3年 【単元名】 古典を学ぶ 【教材名】 和歌の世界—万葉集・古今和歌集・新古今和歌集(和歌の技法、和歌がつながる思い)、おくのほそ道(読み方を学ぼう—状況・背景)、論語(漢文の読み方—訓読の仕方の確認)	○3年 【単元名】 古典を伝える 【教材名】 旅への思い—芭蕉と『おくのほそ道』—、和歌の調べ—万葉集・古今和歌集・新古今和歌集—(歴史的仮名遣い、和歌の修辞、和歌の句切れとリズム)、風景と心情—漢詩を味わう—(漢詩の表現の特徴、日本人が作った漢詩)	○3年 【単元名】 深まる学びへ いにしへの心を受け継ぐ 【教材名】 学びて時に之を習ふ—「論語」から(漢文の訓読)、和歌の世界(音読を楽しむ—古今和歌集仮名序)、君待つと—万葉・古今・新古今(和歌の表現方法)、夏草—「おくのほそ道」から(俳句と俳諧)、古典名作選(古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう)
		◇1年の最初の古典教材では、「浦島太郎」を題材に、古典を学ぶ意義がしめされており、古典に興味をもち、古典に親しめるように工夫されている。各教材とも作品や作者についての解説が掲載されており、伝統的な言語文化を尊重し継承する態度を養える。	◇資料編「読書の広場」には、「古事記」「那須与一」「さまざまな古典」「小倉百人一首」など多様な作品を掲載し、「落語の世界」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」などの伝統芸能の世界に親しむ資料も掲載している。	◇長く現代まで受け継がれている我が国の言語文化を重視し、古典作品や近代文学はもとより、各領域など、伝統的な言語文化への関心を高める教材を設けている。	◇1年「古典の世界」では、3年間で学習する古典を見通し、現代に生きる生徒たちが古典を学ぶ意義を理解することで、学習意欲が高められるよう配慮している。また、3年「つながる古典」や「古典名作選」では、高等学校で学習する作品の一節を紹介し、これまでに学んだ古典との関わりを示すことで円滑な接続を図れるよう配慮している。

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
読書教材や読書活動、学校図書館等の活用について取り上げている教材数と示し方の特徴	<p>○教科の目標への適合 言語活動を通して国語の資質・能力が身に付くよう、各教材で身に付ける力を「言葉の力」として明示し、それぞれの領域で系統的に積み上がるよう配置され、課題解決的な学習を重視した単元構成になっている。</p> <p>○補足的・発展的な学習 巻末に3年間の「言葉の力」と「学びを支える言葉の力」として、本編の学習に役立つ資料を示し、実態に応じた指導の配慮がされている。</p> <p>○書籍紹介数 3学年合計で422点 読書案内や読書活動などの読書に関するページは、地がオレンジ色になっている。 〈読書1〉掲載の読み物教材 1年「平和のバトン」 2年「鯉節—世界に誇る伝統食」 3年「何のために『働く』のか」 〈読書2〉読書への招待 1年「お試し読書のすすめ」 2年「メディアの垣根を越えて」 3年「本との付き合い方」</p> <p>◇「読書と情報」：図書館活用や情報リテラシーなど、情報活用能力を育む教材 ◇「読書活動」：ポップ作りやビブリオバトルなど、生徒が興味をもって取り組める活動の設定 ◇「読書案内」：「読書への招待」と関連するテーマから、生徒が興味をもって主体的に取り組める活動の設定 ◇各学年とも、教材の終わりや「てびき」に「読書案内」として書籍紹介の掲載。また、資料編に読書案内「中学生におすすめの本」の掲載</p>	<p>○教科の目標への適合 言語活動を通して国語の資質・能力が身に付くよう、思考や表現によってつくられた考えを対話によって理解し合い、より創造的な合意を生み出す学習の流れを重視した単元構成になっている。</p> <p>○補足的・発展的な学習 巻末に「資料編」として、本編の参考になる資料を示し、自学自習にも役立ち、繰り返し活用できるような指導の配慮がされている。</p> <p>○書籍紹介数 3学年合計で283点 1年「本を読むことのおもしろさ」 活動「私が選ぶこの一文」 2年「生涯の友と出会う」 活動「ビブリオバトル」 3年「言葉は傘」 活動「ブックトーク」</p> <p>◇各学年「私の読書体験」：筆者の書き下ろし文章及び筆者の著作した図書の紹介。「読書活動」に係る言語活動を1つ掲載 ◇各学年「読むこと」教材の末尾「私の本棚」：書籍紹介の掲載 ◇各学年 資料編「読書の広場」：「小さな図書館」書籍紹介。各学年「読書の広場」に5～6作品の読書教材の掲載</p>	<p>○教科の目標への適合 言語活動を通して国語の資質・能力が身に付くよう、活動の過程と重点を明確に示すことで、自らが学習の方法や内容を振り返って学びを自覚化し、課題解決へ向かう能力を育成する単元構成になっている。</p> <p>○補足的・発展的な学習 巻末に「資料編」として、本編の参考になる資料を示し、自学自習にも役立ち、繰り返し活用できるような指導の配慮がされている。</p> <p>○書籍紹介数 3学年合計で258点 1年「ベンチ」「蜘蛛の糸」 活動「本の帯やポップを作り、本を薦めよう」 「本の情報を取り出す入口」 2年「夢を跳ぶ」「坊っちゃん」 活動「関心を広げ、課題を見つけてレポートを書こう」 「疑問をメモにまとめよう」 「図書館を活用しよう」 「インターネットを活用しよう」 「自分の考えをまとめよう」 3年「薔薇のボタン」 「最後の一句」 活動「ビブリオバトルで本の世界を広げよう」</p> <p>◇各学年 読書単元「読書への招待」：2作品掲載。また、2作品のうち最初の作品の終わりにある「みちしるべ」では、読書に係る言語活動を掲載し、後の作品では作者の紹介の掲載。 ◇各学年とも資料編の「言葉の自習室」：読書に関わる教材4作品の掲載 ◇各学年とも各単元末と資料編「広がる本の世界」：書籍紹介の掲載</p>	<p>○教科の目標への適合 言語活動を通して国語の資質・能力が身に付くよう、生徒の主体性をもとにしながら、学びや思考を支える語彙、生きて働く知識及び技能の習得、論理的思考力や判断力の向上を目指した単元構成になっている。</p> <p>○補足的・発展的な学習 巻末に「学習を広げる」として、学年に応じた学習に役立つ資料を示し、日常生活に広げて活用できる指導の配慮がされている。</p> <p>○書籍紹介数 3学年合計で447点 1年「本の中の中学生」 「研究の場ようこそ」 活動「ポップを作ろう」 「読書会を開こう」 「読書記録を続けていこう」 資料「読書感想文の書き方」 2年「翻訳作品を読み比べよう」 「自分らしさ」を認め合う社会へ 活動「ブックトークをしよう」 「読書ポスターを作ろう」 「読みたい本のリストを作ろう」 3年「私の一冊」を探しにいこう 「本は世界の扉」 活動「私の一冊」を紹介しよう 「ブックレビューを書こう」</p> <p>◇各学年 読書単元2つ設定「いつも本はそばに」：多様な分野へ読み広げる契機となる作品・文章と読書活動、読書案内、コラムで構成、読書への意欲を喚起するよう工夫 ◇各学年 教材「広がる読書」 書籍紹介</p>

別表2

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
語彙に関する教材の数と示し方の特徴	<p>○漢字に関するもの 1年 8「漢字道場」 2年 8「漢字道場」 3年 6「漢字道場」</p> <p>○文法に関するもの 1年 3「文法の窓」「文法解説」 2年 3「文法の窓」「文法解説」 3年 2「文法の窓」「文法解説」</p> <p>○上記以外 1年 4「日本語探検」 2年 3「日本語探検」 3年 4「日本語探検」</p> <p>◇日本語の決まりや特徴を学ぶ「日本語探検」では、日本語に親しみながら、知識や技能を定着させる工夫がされている。 ◇文法は、導入で誰もが取り組みやすいように、ゲーム仕立てになっている。また、解説ページでより深く学ぶことができる工夫がされている。 ◇多くの言葉を学べるような工夫がされている。</p>	<p>○漢字に関するもの 1年 12「漢字を身につけよう」「漢字のしくみ」 2年 11「漢字を身につけよう」「漢字のしくみ」 3年 9「漢字を身につけよう」「漢字のしくみ」</p> <p>○文法に関するもの 1年 2「文法の窓」 2年 2「文法の窓」 3年 2「文法のまとめ」「三年間の文法の総まとめ」</p> <p>○上記以外 1年 4「言葉発見」 2年 4「言葉発見」 3年 4「言葉発見」</p> <p>◇教材の学習に関連付けながら、多様な語句を身に付け、語感を磨く工夫がされている。 ◇英語との関連で学ぶ内容が取り上げられている。 ◇漢字や文法では、練習問題を設け、確かな知識として定着を図る工夫がされている。</p>	<p>○漢字に関するもの 1年 11「漢字の広場」「漢字の練習」 2年 9「漢字の広場」「漢字の練習」 3年 9「漢字の広場」「漢字の練習」</p> <p>○文法に関するもの 1年 6「文法の小窓」「文法（解説）」 2年 6「文法の小窓」「文法（解説）」 3年 6「文法の小窓」「文法（解説）」</p> <p>○上記以外 1年 6「言葉の小窓」「言葉（解説）」 2年 6「言葉の小窓」「言葉（解説）」 3年 8「言葉の小窓」「言葉と社会」「言葉（解説）」</p> <p>◇興味関心を高めるために、文法などの教材の中で、親しみを持てる例を挙げる工夫がされている。 ◇情報の整理や表現に役立つ、語彙や表現がまとめられている。</p>	<p>○漢字に関するもの 1年 9「漢字」「漢字に親しもう」「練習」 2年 9「漢字」「漢字に親しもう」「練習」 3年 9「漢字」「漢字に親しもう」「練習」</p> <p>○文法に関するもの 1年 6「文法への扉」「文法」 2年 7「文法への扉」「文法」 3年 5「文法への扉」「文法」</p> <p>○上記以外 1年 5「言葉」「語彙ブック」 2年 4「言葉」「語彙ブック」 3年 4「言葉」「語彙ブック」</p> <p>◇語彙を増やすため、言葉と向き合う教材が多く取り入れられている。（「語彙ブック」や「言の葉ポケット」など） ◇漢字や文法などは、二次元コードを読み込むことで、豊富な練習問題に取り組める工夫がされている。</p>
情報の扱い方の教材の数と示し方の特徴	<p>○情報を取り扱う教材 1年 7「情報と論理の学び」「情報の精査」 2年 12「情報と論理の学び」「読書と情報」 3年 7「情報と論理の学び」「情報を深く捉える」</p> <p>◇「情報と論理の学び」 ◇「情報の整理」、「情報と情報との関係」に対応する教材が全学年で取り上げられている。 ◇情報収集の際に、情報の信頼性を確かめることを重視 ◇「思考のヒント」として情報の整理に有効な思考ツールを多数取り上げている。 ◇必要に応じて二次元コードコンテンツを活用できる工夫がされている。</p>	<p>○情報を取り扱う教材 1年 4「情報を関係づける」 2年 5「情報を関係づける」 3年 3「情報を関係づける」</p> <p>◇「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と、文章による情報を関連付けながら自分の考えを深め、効果的に発信できる工夫がされている。 ◇情報リテラシーを高められるような教材が取り上げられている。 ◇「情報の扱い方」に関する単元を各学年に特設</p>	<p>○情報を取り扱う教材 1年 5「情報を得る」 2年 4「情報を捉える」 3年 7「情報を共有する」</p> <p>◇日常的に接する情報についての読み物教材で、身近な情報の特徴の理解ができる工夫がされている。 ◇情報を扱うさまざまな媒体や手法を知り、実際に表現ができる教材が取り上げられている。 ◇情報活用能力の育成を手助けできる工夫がされている。</p>	<p>○情報を取り扱う教材 1年 5「思考のレッスン」「情報×SDG s」「思考のレッスン」 2年 5「思考のレッスン」「情報×SDG s」「思考のレッスン」 3年 4「思考のレッスン」「情報×SDG s」「情報整理のレッスン」</p> <p>◇社会へと視野を広げ、生徒の実生活や将来に生きる情報活用の方法が学べるような教材が取り上げられている。 ◇文章における「情報の扱い方」を具体例や図解などで示す工夫がされている。</p>

別表3

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
領域ごとの言語活動と示し方	<p>【話すこと・聞くこと】の教材の数と示し方の特徴</p> <p>○話すこと・聞くことの教材 1年 3「インタビュー」など 2年 3「プレゼンテーション」など 3年 3「条件スピーチ」など</p> <p>◇共通「対話」「スピーチ」 ◇グループディスカッション→プレゼンテーション→条件スピーチ ◇協働的な学びの重視（学習の中で、周りの人と感想や意見を交換する手順を多く設ける。互いの意見を尊重しながら合意を形成することを重視） ◇二次元コードコンテンツ</p>	<p>○話すこと・聞くことの教材：関わり合いながら、思考力・コミュニケーション能力を高める 1年 3「スピーチ」など 2年 3「提案」など 3年 4「討論」など</p> <p>◇共通「グループディスカッション」「取材・編集会議」 ◇スピーチ→プレゼンテーション→パブリックスピーキング（演説） ◇各学年の学習のねらいに即した「話し合いのこつ」を系統的にまとめている。 ◇各学年の資料編に、対話の質を高めるポイントとなる「質問の仕方」についての教材を配置。 ◇3学年とも、1年間の学びの総まとめとして、「話す・聞く」「書く」を抱き合わせた単元が配置されている。</p>	<p>○話すこと・聞くことの教材：多様な立場や考え方を受容し、思考し、表現する力を高めることで「対話力」の向上を培う 1年 4「予想する」など 2年 4「プレゼンテーション」など 3年 5「ビブリオバトル」など</p> <p>◇共通「スピーチ」「話し合い」「討論」 ◇導入、話す（構成を考える、多面的にとらえる、構成を工夫する）、聞く（予想する、相違点を明確にする、表現の工夫を評価する）、話し合う（考えをまとめる、様々な考えを踏まえる、意見を共有する） ◇教材末尾に「学びを生かす」を設け、国語科での学びを実生活に活かす力を育む。 ◇「学びナビ」で見える化</p>	<p>○話すこと・聞くことの教材 1年 7「スピーチ」など 2年 6「プレゼンテーション」など 3年 6「対談」など</p> <p>◇聞く、話す、対話・質問、話し合い ◇焦点化と活用、ICT活用、言葉を増やす ◇「学びへの扉」 ◇3学年とも、1年間の学びの総まとめとして、「話す・聞く」「書く」を抱き合わせた単元が配置されている。 ◇「聞く」「話し合い（進行）」二次元コード</p>
【書くこと】の教材の数と示し方の特徴	<p>○書くことの教材 1年 5「案内文・報告文」など 2年 5「依頼状・お礼状」など 3年 4「批評文」など</p> <p>◇詩歌創作、伝達、通信・手紙、論証・説得、感性・想像の系統で全学年配置。（3年通信・手紙なし） ◇詩歌の鑑賞から、詩歌の創作へ。文学の読解から描写の学習へ。直前の学習を続ける言語活動に活かせる教材配列</p>	<p>○書くことの教材：「言葉で考える力」と自分の考えを「表現する力」を高める 1年 6「リーフレット」など 2年 7「投稿文」など 3年 3「名言集」など</p> <p>◇レポート系列、創作系列1、情報系列、創作系列2、意見文系列、総合系列で全学年配置。（3年創作系列なし） ◇「読むこと」と「書くこと」の学習を関連付けた単元を随所に配置。「読むこと」の学習を生かして、効果的な学習指導へとつなげられる。「学びの道しるべ」</p>	<p>○書くことの教材：社会に求められる多様な文種や表現形態を通して表現力を高める 1年 5「紹介文」「意見文」など 2年 5「連作ショートショート」など 3年 4「自己PR文」など</p> <p>◇題材、構成、考えの形成・記述、推敲、共有 ◇教材末尾に「言葉・情報」を設け、論理的思考力を支える文型を取り上げて、表現の具体の参考になるようにしている。 ◇「学びナビ」では表現活動に関する思考の方法を図解で見える化</p>	<p>○書くことの教材 1年 13「体験文」「意見文」など 2年 10「手紙・電子メール」など 3年 7「小論文」「報道文」など</p> <p>◇情報整理、創作1、案内・手紙、推敲、意見批評、創作2（3年、案内・手紙、創作2なし） ◇書くことのミニレッスン 二次元コード ◇「学びへの扉」学習を焦点化 ◇表現テーマ例集 二次元コード ◇「語彙ブック」新登場 ◇学習記録の冊子</p>
【読むこと】の教材における言語活動の数と示し方の特徴	<p>○読むこと+言語活動の教材 1年 7/17点 ◇音読・朗読する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇文章の構成や表現の工夫を考える。 ◇説明文を要約する。 ◇新聞記事を比較する。</p> <p>2年 7/17点 ◇音読・朗読する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇図表と関連させて読む。 ◇複数の文章を比較して読む。</p> <p>3年 7/16点 ◇音読・朗読する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇文学作品を批評する。 ◇論説文を評価する。 ◇評論文を批判的に読む。</p>	<p>○読むこと+言語活動の教材 1年 10/17点 ◇音読・朗読する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇説明文や評論文についての感想や考えを交流する。</p> <p>2年 9/17点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇説明文や評論文についての感想や考えを交流する。 ◇文章と図表の関連を考える。</p> <p>3年 10/16点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇論説文を批判的に読む。</p>	<p>○読むこと+言語活動の教材 1年 7/17点 ◇音読・朗読する。 ◇説明文や報告文についての感想や考えを交流する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。</p> <p>2年 10/19点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇説明文を比較して読む。 ◇説明文や評論文についての感想や考えを交流する。</p> <p>3年 8/20点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇社説を比較する。 ◇論説を批判的に読む。 ◇論説を比較して読む。 ◇文学作品を批評する。</p>	<p>○読むこと+言語活動の教材 1年 12/20点 ◇音読・朗読する。 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇説明文や意見文についての感想や考えを交流する。 ◇構成や展開を読む。 ◇物語を別の視点で書き換える。</p> <p>2年 9/21点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇図表と関連させて読む。 ◇説明文や論説についての感想や考えを交流する。 ◇複数の文章を比較して読む。</p> <p>3年 7/23点 ◇詩歌や物語の感想や考えを交流する。 ◇説明文や論説についての感想や考えを交流する。 ◇文学作品を批評する。 ◇論説を比較して読む。</p>

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	<p>◇教材文の後に「てびき」として記載している。</p> <p>◇3年間で「言葉の力」が積み上がるように系統的に配置している。</p> <p>◇説明文系統 読む→情報と論理の学び→書く8伝達、論証・説得) /話す・聞く</p> <p>◇共通 音読・朗読、詩歌や物語の感想や考えを交流する。</p> <p>○説明的な文章 新教材 1年 「朗読の世界」 2年 なし 3年 なし</p> <p>○文学的な文章 新教材 1年 「私たちの未来」(小説) 2年 「足跡」(小説) 「あの夕暮れへ帰る」(随筆) 3年 「世界への入り口」(随筆)</p> <p>○読書教材 新教材の提示なし</p>	<p>◇領域別教材一覧の表の中に「言語活動」の欄を設定している。</p> <p>◇「読み方を学ぼう」: 3年間で22の方略を示している。</p> <p>◇教材文の後に「学びの道しるべ」として記載している。学習者相互の「対話」を促す活動を重視し、随所に採り入れる。</p> <p>○説明的な文章: 現代的な課題に向き合い、論理的思考力・批判的思考力を高める 新教材 1年 「1000円の価値を考える」(説明) 2年 「味は味覚だけでは決まらない」(論説) 「飲み水は不足しているか」(論説) 「水問題に関する資料」(図表) 3年 「海を越えた故郷の味」(随想) 「見たいものだけ見る私たち」(論説) 「情報の信頼性を確かめる」(実用文) 「私とは何か」(論説)</p> <p>○文学的な文章: 感性や想像力を育み、対話を通して考えを深める。 新教材 1年 なし 2年 なし 3年 「言の森」(詩)</p> <p>○読書教材 新教材 1年 「おじいさん」 2年 「金継ぎの美と心」 「青いインク」 「形」 3年 「虚と実」 「線は、僕を描く」</p>	<p>◇各教材に学習の手引き「みちしるべ」を置き、「学びナビ」や「ヒント」でおさええた「読み方」や学習の重点を踏まえて内容を読み深められるように構成している。</p> <p>◇「言葉の地図」として、1年間で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力を表で示している。</p> <p>◇「学びナビ」で、その教材で「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を本文の前に分かりやすく示している。</p> <p>◇「みちしるべ」とのリンクに言語活動例を示している。</p> <p>○説明的な文章: 多様で現代的な話題を取り上げ、生徒の論理的思考力を高める 新教材 紹介なし</p> <p>○文学的な文章: 社会や人間の光と影、微細な心情も捉えた「リアル」が表された、読者にさまざまな感想を抱かせる圧巻の教材群 新教材 紹介なし</p>	<p>◇「読むこと」教材は8系統 詩教材は各学年3か所に掲載。教材ごとに重点的に圧活指導事項に基づく目標及び、「言葉の力」を明示している。すべての指導事項を扱い、言語活動例を網羅している。</p> <p>◇教材文の後に「学びへの扉」として記載している。</p> <p>○説明的な文章 新教材 1年 「情報収集の達人になろう」 2年 「デジタル市民として生きる」(解説) 3年 「言葉の釣り糸を垂らす」(随筆) 「実用的な文章を読もう」 「報道文を比較して読もう」 「複数の意見を読んで考えようー正解が一つに決まらない課題と向き合う」(論説) 「それでも、言葉を」(評論)</p> <p>○文学的な文章 新教材 1年 「はじまりの風」(物語) 「雲」・「魚と空」(詩) 「二十歳になった日」(随筆) 「ぼくがここに」(詩) 2年 「ヒューマノイド」(小説) 「鍵」(詩) 3年 「律儀な桜」(随筆) 「初日」(詩)</p> <p>○読書教材 新教材 1年 「四百年のスローライフ」 「はやぶさ2最強ミッションの真実」 2年 「父と話せば」 「六千回のトライの先に」 3年 「天、共に在り」「極夜行」</p>

教科・種目名 国語 調査研究事項

別表4

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
教科書の使い方に関する記載の有無	○教科書の使い方 有 ◇他教科との関連 くさり罫のマーク	○教科書の使い方 有 「確かな言葉を身につけるために」 ◇解説動画 二次元コード	○教科書の使い方 有 「言葉の地図」 ◇図表、学びナビ、学びリンク	○教科書の使い方 有 「学習の見通しを持とう」 ◇図表、「思考の地図」、資料編デジタル二次元コード
学習過程全体がわかる「学習のまとめ」の教材の数と示し方の特徴	○「学習のまとめ」 1年 15 2年 17 3年 17 ◇「読むこと」の教材末に「てびき」として提示し、課題を考えるヒントとして「言葉の力」を記載 ◇「古典」の教材末に「てびき」として提示し、古典の基礎知識を理解する「古典コラム」を記載	○「学習のまとめ」 1年 18 2年 19 3年 18 ◇「読むこと」の教材末に「学びの道しるべ」として提示 ◇「読み方を学ぼう」で読み方のポイントを提示。他教科の学習や社会生活の中で「学び方」「考え方」として活用できる。	○「学習のまとめ」 1年 11 2年 15 3年 13 ◇「読むこと」の教材末に「みちしるべ」として提示 ◇「学びナビ」で読み方のポイントを提示	○「学習のまとめ」 1年 16 2年 18 3年 19 ◇「読むこと」の教材末に「学びへの扉」として提示し、主体的な学びへのヒントを記載 ◇巻末資料「国語の力試し」

別表5

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
発展的な学習の内容や今日的な課題を扱った教材の数と内容や示し方の特徴	<p>○発展的な学習 共通 巻末の資料編 1年「未来への扉 多様性と共生社会」 2年「未来への扉 地球環境と人間社会」 3年「未来への扉 国際社会と私たち」</p> <p>◇「未来への扉は」は1年間の学習の総まとめとして設定されている。 ◇複数の資料から、生徒が対話を通して主体的に考えを深める単元として設定されている。</p> <p>○今日的な課題 共通「未来への扉」 話すこと・聞くこと 1年 0/3点 2年 2/3点 3年 2/3点 書くこと 1年 1/5点 2年 2/5点 3年 2/4点 読むこと 1年 6/17点 2年 8/17点 3年 5/16点</p> <p>◇全体を通して未来を考える9つのテーマが設定されている。 ◇新聞記事の比べ読みなど、新聞やSNSを取り上げて、情報の活用について考えさせる教材が設定されている。</p>	<p>○発展的な学習 共通 巻末の資料編 1年「グループ新聞 一年間の自分とクラスを振り返って」 2年「情報誌 地域の魅力を振り返って」 3年「名言集 中学校生活を振り返って」</p> <p>◇資料編は、「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」からなり、情報活用に資する資料、伝統文化に親しむ資料、言語活動に必要な知識などを掲載している。</p> <p>○今日的な課題 話すこと・聞くこと 1年 1/4点 2年 2/4点 3年 2/5点 書くこと 1年 3/6点 2年 2/6点 3年 2/6点 読むこと 1年 7/17点 2年 7/17点 3年 6/16点</p> <p>◇急激な社会の変化がもたらす現代の課題（情報・言語・環境・国際理解・平和・人権・少子高齢化・防災・食育など）や、持続可能な開発目標（SDGs）に、関わる教材を配列している。</p>	<p>○発展的な学習 共通 巻末の「言葉の自習室」「学びのチャレンジ」「総合（SDGs）持続可能な未来を作るために」 1年 話すこと・聞くことの単元 4点 2年 話すこと・聞くことの単元 6点 3年 話すこと・聞くことの単元</p> <p>◇各学年に「総合（SDGs）」教材を設け、SDGsの各目標に国語の各領域の学習を関連させ、自ら考え、共同して問題を解決する学習を設定している。</p> <p>○今日的な課題 話すこと・聞くこと 1年 2/5点 2年 1/5点 3年 2/5点 書くこと 1年 2/7点 2年 3/6点 3年 1/5点 読むこと 1年 6/17点 2年 7/19点 3年 7/20点</p> <p>◇各領域に、SDGsに関わる、人権、平和、環境、産業など、生徒が日常の生活で向き合っている課題について取り上げている。 ◇情報活用能力を養う教材が取り入れられている。</p>	<p>○発展的な学習 共通 巻末の資料編 1年 話す・聞く、書くの単元 6点 「一年間の学びを振り返ろう」 2年 話す・聞く、書くの単元 6点 「国語の学びを振り返ろう」 3年 話す・聞く、書くの単元 4点 「三年間の学びを振り返ろう」</p> <p>◇話す聞く単元に「生かす」という形で、他や日常生活に生かしながら発展的に学習できる表示がある。</p> <p>○今日的な課題 共通 情報 1/4点 言語文化 11/15点 話すこと・聞くこと 1年 2/7点 2年 2/6点 3年 2/6点 書くこと 1年 2/13点 2年 4/10点 3年 2/7点 読むこと 1年 5/20点 2年 6/21点 3年 11/23点</p> <p>◇関連するSDGsの目標を教科書内に示すことで、学習者に意識的に学びを勧める工夫がなされている。 ◇SDGsを題材に、三学年を通して情報活用能力を養う教材が新設された。</p>

教科・種目名 国語 調査研究事項

別表6

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
他教科、総合的な学習の時間等との関連がみられる教材の数と示し方の特徴	<p>○他教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写、社会、理科、技術・家庭、保健体育、英語など関連があることを示すマーク教科関連マーク(∞)で明記されている。 「漢字道場」:「他教科で学ぶ漢字」社会、数学、理科、技術・家庭、保健体育の重要語句に含まれる漢字が取り上げられている。 道徳科の四つの視点と、二十二の内容項目を意識して作品や言語活動を選定。人間としての生き方について多面的・多角的に考えることができる。 <p>○総合との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 「未来を考えるための九つのテーマ」を設け、さまざまな視点から考えることができるように設定されている。 「科学と探究」「安全・防災」「情報社会」「多様性」「伝統と文化」「地球環境」「平和・国際理解」「自己と他者」「学校・社会」 	<p>○他教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師用内容解説資料に明記 「グループディスカッション」:3年通して第1単元に配列している。学年の初めに話し合いの方法を学習することで、他教科も含めたあらゆる場面で活用できる。 他教科や日常の言語生活との連携を図り、幅広い題材についての認識を深め、国語科の学習で習得した言葉の力が他教科や社会生活などの中で生きて働くよう工夫されている。 英語、社会、理科、美術、技術・家庭、道徳、総合的な学習の時間 全学年各教科1ずつ <p>○総合との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年第6単元「情報を関連付ける」 	<p>○他教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 他教科(社会、理科、道徳)と関連付けた教材が配置されている。 SDGsも視野に入れた幅広い分野からの話題を取り上げている。 表現に関する教材を中心に、他教科の学習に合わせて柔軟に取り組むことができるよう考慮している。 「学びを生かす」の欄で他教科や日常生活、社会生活などへの関連を示している。 <p>○総合との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の「総合(SDGs)教材」、各領域にSDGs)や生徒が日常的に向き合っている課題を取り上げた教材を置き、社会科、理科、道徳などでの学習との関連が図れるように配慮している。 各領域に、SDGsに関わる、人権、平和、環境、産業など生徒が日頃の生活で向き合っている課題について自ら考え、表現する力を高められるよう図っている。教科書冒頭「言葉の地図」で示している。 	<p>○他教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 資質・能力系統表にて明記している。 学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を育成するために、教科横断的な学習を一層推進する多様な教材を用意されている。 <p>◇1年間で身に付ける資質・能力を記した「学習の見通しを持とう」に他教科との関連を明記している。(理科、社会、外国語、美術、音楽、体育、技術・家庭、道徳)</p> <p>○総合との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合(キャリア、防災、行事)と関連させている。
<p>指導要領 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3の(2)</p> <p>教材選定の8観点との関連</p> <p>ア 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにするのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。</p> <p>カ 人間・社会・自然などについての考えを深めるのに役立つこと。</p> <p>キ 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p>	<p>○8観点との関連させている</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書全体を通して「未来を考えるための9つのテーマ」(「自己と他者」「学校・社会」「科学と探究」「安全・防災」「情報社会」「多様性」「伝統と文化」「地球環境」「平和・国際理解」)が設定されており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材では、9つのテーマとの関連が図られている。国語の学習を通して自分や社会の課題と向けあえるように工夫されている。 各学年末の教材「未来への扉」は1年間の学習の総まとめとして設定されている。1年は「多様性」、2年生は「地球環境」、3年生は「平和・国際理解」について、それまでに学習した「言葉の力」を使って考えを深める教材となっている。生徒が対話を通して主体的に、自分や社会の未来について考えられるように工夫されている。 	<p>○8観点との関連させている</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書全体を通して、学習指導要領に示された教材の選定の観念を踏まえ、学習意欲を喚起するとともに、確かな言葉の力の育成に資する教材を選定している。 現代社会の課題をテーマに、グラフや図表などのさまざまな上表を読み取り、話し合いを通して自ら課題を発見し、自分の考えを深めていく教材を設けており、社会の委員として求められる幅広い資質・能力の育成を図っている。 言語や情報、人権、環境、国際理解、平和など、現代の課題に向き合いながら、問を生み出し、想像力をはたらかせて、人や社会について多角的に考え、豊かな心を育むことのできる教材を配列している。 	<p>○8観点との関連させている</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来の社会の担い手となる中学生が、現在あるいは将来に向き合う、現代的な課題を取り上げている。国語の「不易」と「流行」、豊かな人間性・社会性、生命の尊重、科学的・論理的な考察、国際協調や平和、情報活用、メディアリテラシーへの対応などを考慮している。 新しい時代の社会を担う一員として生活や社会におけるさまざまな課題に対して、それを発見し他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決を目指す態度と能力を育成できるよう、配慮している。 <p>○8観点との関連させている</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書全体を通して生徒の発達の段階を考慮するとともに、学習意欲を喚起し、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力及び道徳性を育成できる教材を選定している。 小学校から中学校への円滑な接続を図る特設教材「言葉に出会うために」では、生徒の学習意欲を向上させるとともに、学習履歴を見取りやすい教材を位置付けている。 学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力や、現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を一層推進する多様な教材を用意している。 	

別表7

調査項目	発行者名			
	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
デジタル教科書の用意やユニバーサルデザインを意識した特徴的な例	<p>○デジタル教科書の用意：発行予定学習者用・指導者用（Google 翻訳（133言語）、総ルビ、分かち書き表示、リライト教材対応）</p> <p>○ユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲済み（配色とデザイン） ・本文各行の下に数字と点が付されており、行を数えやすいよう配慮あり。 ・1年教材の本文は、2・3年よりもひと回り大きな活字を使用 ・1年最初の教材には、小学校高学年と同じ大きさの教科書体使用 	<p>○デジタル教科書の用意：あり学習者用・指導者用（抜き出しノート機能、三省堂が刊行する辞書の語積を活用した「語句フラッシュカード」）</p> <p>○ユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲済み（色による区別に加えて、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりあり） ・独自の書体を使用し、画数や点画の方向などにおいて誤解が生じない配慮あり。 ・漢字や書き写すことの多い古典の本文では手書き文字に近い書体を使用し、識別しやすい色を追究 	<p>○デジタル教科書の用意：あり学習者用（特別支援に資する機能）・指導者用（朗読音声や資料を追加）</p> <p>○ユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲済み（CUDO）によるチェック、学年の基本色の設定、統一的で落ち着いた色づかいとデザイン、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動なし。） ・ユニバーサルデザインに対応した書体やデジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体を使用 ・本文各行の下に数字と点が付されており、行を数えやすいよう配慮あり。 ・1年と2・3年では基本の字詰めや行数を変えるなどの工夫あり。 	<p>○デジタル教科書の用意：あり学習者用・指導者用（インクルーシブ教育を実現する「ふりがな表示」「自由に文字色、背景色カスタマイズ」「マイ黒板」「ポートフォリオ」といった書き込みや自己採点が可能）</p> <p>○ユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲済み（紙面構成を統一） ・本文各行の下に数字と点が付されており、行を数えやすいよう配慮あり。 ・光村オリジナル書体を使用
挿絵、写真、図表や資料の配置についての特徴的な例	<p>○特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場キャラクター（学生と独自のもの）多様性（ルーツやジェンダーレス）への配慮があり、表情豊か。吹き出しで会話形式が多い。 ・古典教材において、色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版を観音開きで掲載 ・読書紹介は写真に加えて文章での説明が多い。 <p>○デジタルコンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の参考や深化拡充のための資料は、各学年巻末折り込み「デジタルコンテンツ一覧」になっている。（全415） 	<p>○特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場キャラクター（戦隊物や動物）全体的にサイズが小さめ。人物は、男女バランスに配慮あり。特に「読むこと」以外に挿絵が多い。 ・古典教材は、色鮮やかな見開きページ、作品の全体像を捉える形で掲載。 ・読書紹介は複数ページにわたっており、写真が大きい。 <p>○デジタルコンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料編に豊富な図版があり、個別最適な学びと協働的な学びの実現をサポートするための動画・音声・デジタルドリル・参考資料といったデジタルコンテンツあり。（500以上） 	<p>○特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場キャラクター（動物）量は少なめ。 ・イラストや図表などと文字の空気が十分にある。 ・スピーチや話し合いの様子が図解で、具体的 ・読書紹介は文字が大きめ。 <p>○デジタルコンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時に参照できる生徒の自学自習に資する資料や参考図書、参考作品、動画・画像資料などの「まなびリンク」あり。（全150） 	<p>○特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場キャラクター（主に学生） ・学びのカギに必ず図解あり。 ・学習のポイントは縦書き、学習の流れは横書きで、左右のページで役割・機能を分割 ・古典教材では、小・中・高で学習する古典のつながりを視覚化。ビジュアル資料を両観音開き構造で掲載 ・読書紹介は写真小さめで数が多い。 <p>○デジタルコンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や社会生活に役立つ資料を二次元コードコンテンツで用意。また、CBTに対応した二次元コードコンテンツあり。（350以上）